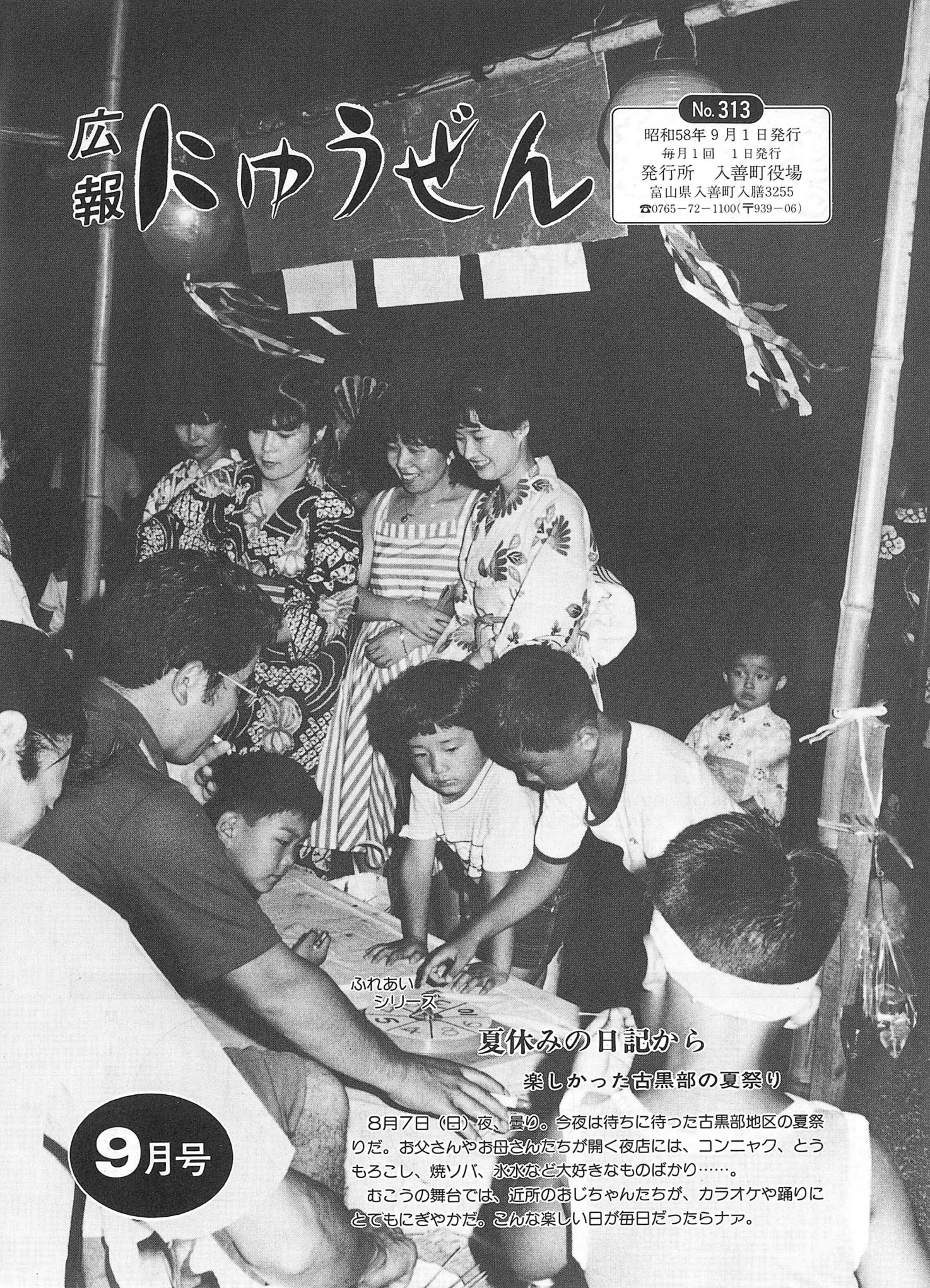


広報にゆうぜん

No. 313

昭和58年9月1日発行
毎月1回 1日発行
発行所 入善町役場
富山県入善町入膳3255
☎0765-72-1100(〒939-06)



ふれあい
シリーズ

夏休みの日記から

楽しかった古黒部の夏祭り

8月7日(日)夜、曇り。今夜は待ちに待った古黒部地区の夏祭りだ。お父さんやお母さんたちが開く夜店には、コンニャク、とうもろこし、焼ソバ、氷水など大好きなものばかり……。

むこうの舞台では、近所のおじちゃんたちが、カラオケや踊りにどてもにぎやかだ。こんな楽しい日が毎日だったらナァ。

9月号

まだまだ これからですよ!



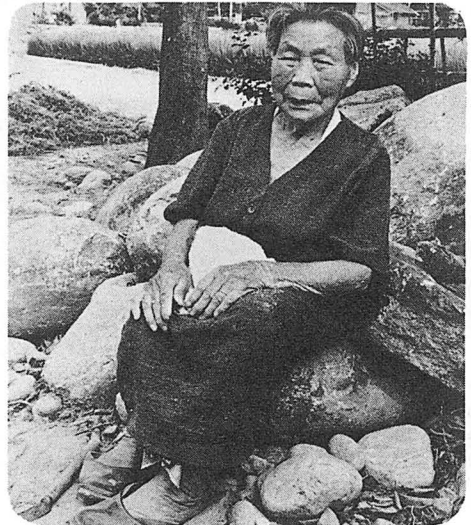
「蝶々健在」
もうすぐ満100歳に
中沢ふてさん(道市)

明治16年10月6日生まれの中沢ふてさんは、現在白寿の99歳で、今秋いよいよ満100歳を迎えられます。

人一倍足が丈夫なふてさんは、若い時から石灰を担いで田んぼを飛び回ったそうで、近所の人はこれを見て「また蝶々が飛んどるわ」と驚いたほどでした。

そして、100歳という声がかかった今も、家族の人が注意するほど家の回りを散歩するのが大好きで、まさに「蝶々健在」といったところです。

一世紀を生き抜くお二人

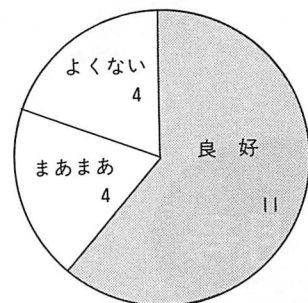
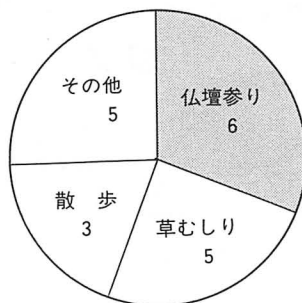
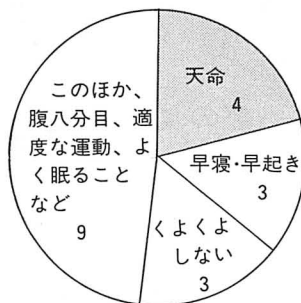


「まんまばあちゃん」
草むしりもほどほどに
室れゑさん(君島)

取材に伺ったのは、ちょうど真夏の太陽が照りつける暑い日の昼下がり。にもかかわらず、れゑさんは額に大きな汗を浮かべながら、庭の草むしりに精を出しておられました。それも、麦わら帽子もかぶらずに……。

満100歳を迎えた今年1月、風邪でしばらく寝込んだものの、すぐ元気になり、「こりゃ県下一の長寿者になるわ」と、家族の喜びは一しおです。朝夕、仏壇参りを欠かさぬことから、ひ孫から「まんまばあちゃん」という愛称で呼ばれています。

米寿者31人に聞きました(19人回答)



入善町長寿者番付表

東 (9月1日現在) 西

氏名	年齢	住所	位置	氏名	年齢	住所
室れゑ	100	君島	横綱	中沢ふて	99	道市
長田いと	96	東狐	大関	青木みよ	96	荒又
松原ひろ	95	新屋	関脇	内橋ふじ	95	舟見
中川はる	95	栲山	小结	松原みつ	95	上野
高浜ちよ	95	芦崎	前頭	五十里いさ	95	入膳
水野あい	94	下山	2	細田いと	94	東狐
青木とよ	94	舟見	3	広田みよ	94	東狐
田原ツタ	94	入膳	4	上田寅次郎	94	入膳
沢村岩次郎	93	吉原	5	曳田つね	93	横山
高源志ん	93	新屋	6	内島よし	93	舟見
松永源次郎	93	横山	7	坂東米次郎	93	田ノ又
鍋嶋きよ	93	下山	8	口岩いと	93	舟見
橋元なつ	92	上野	9	中易すゞ	92	浦山新
山本ちよ	92	青木	10	清水みよ	92	高畠
込尾よせ	92	青島	11	寺林きよ	92	舟見
水越岩次郎	92	栲山	12	杉本ちや	92	小摺戸
東瀬てい	92	舟見	13	家城シケ	92	舟見
永原きよ	92	舟見	14	桑畠イヨ	91	舟見
池原清西	91	藤原	15	小林はつ	91	舟見
寺島菊枝	91	舟見	16	中沢やす	91	道市
神子沢きよ	91	藤原	17	広川はつ	91	古黒部
川原ちい	91	木根	18	道又あや	91	神子沢
林あい	91	高畠	19	上島そよ	91	上飯野
飛弾すみ	91	藤原	20	川畑つや	91	青島
佐伯きよ	90	舟見	21	長津はる	90	舟見
大井清造	90	東狐	22	鬼原あや	90	浦山新
杉沢みのり	90	目川	23	川原めよ	90	木根
草野いと	90	藤原	24	南保きよ	90	舟見



90歳以上は56名

米寿者は31名

9月15日は「敬老の日」、そして15日～21日は「老人福祉週間」です。町では、今年も90歳以上の長寿者番付表を作成してみました。

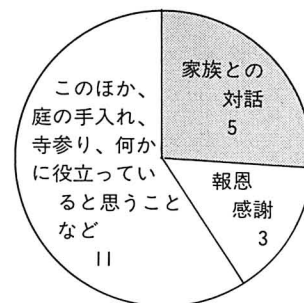
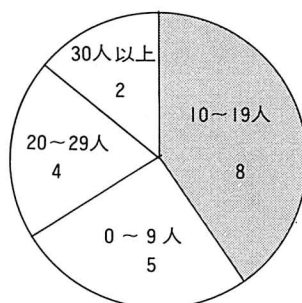
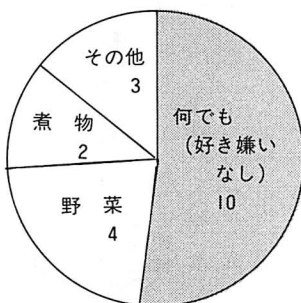
前ページで紹介いたしました東の横綱・100歳の室れゑさん、西の横綱・99歳の中沢ふてさんを見てみますと、「老後なんてとんでもない、これからですよ」といった印象を受けます。大関以下のかたがたも、このお二人に続いて今後も長生きしていただきたいものです。

さて、今年めでたく米寿（88歳）を迎えたかたがたは31名です。お年寄りの日常生活の一端を紹介するため、米寿者に下欄のアンケートをとってみました。

「長寿の秘けつは？」との問いに、①早寝・早起き、②くよくよしないこと、③腹八分目、④適度な運動……といった回答が寄せられています。

米寿者のみならず、100歳という高齢まで生きるためには、最低の条件かもしれませんネ……。

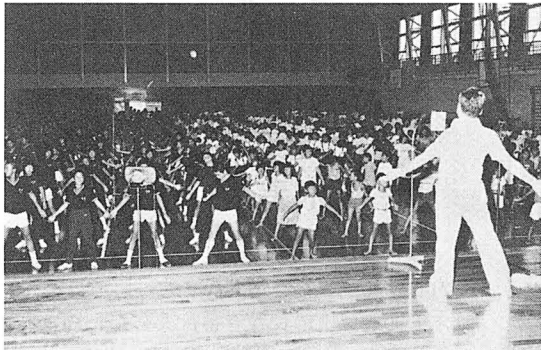
米寿者31人に聞きました(19人回答)



「まず、入善の印象を
佐田 高知県中村市出身で、
まそれが農家ということもあって、
この地を初めて踏んだときから馴
じみやすかったですね。
それに、こちらでは言葉の語尾
に「……チャ」と言いますが、私
の郷里でも全く同じで、ますます
親近感を覚えました。
「入善の住み心地ですか？」
雪さえ降らなければ、こないだ

とから見たにゅうぜん

新和工業株式会社の専務取締役である佐田家利さん(52歳)は、昭和56年8月、入善に着任されました。さて、この2年間の感想は
いかに?



← NHKラジオ体操に 1,400名が参加

入善町合併30周年記念のNHKラジオ体操が、8月20日午前6時半から、入善中学校体育館で開かれました。
あいにくグランドコンディションが悪く、会場を体育館に変更。それでも館内には1,000人が、体育館の囲りでも400人がラジオに合わせて、一、二、三、四——。手と手がぶつかるほどでした。

西村翼さん 故郷の夏を満喫 →

日本で初めてのお盆を過ごそうと、中国から永住帰国して東京で暮らしている西村翼さん(41歳)父子4人が、8月5日から14日まで、父親の実家、西村敏さん(道市)宅に里帰りしました。
「海水浴に釣り、そしておいしい食べ物。毎日楽しくて…」と、故郷の夏が気に入ったようでした。



← ベルギーから ヤング女性2人が来町

町ロータリークラブ(寺林茂盛会長)の招きで、ベルギーからヤングギャル2人が、7月26日から1週間町内でホームステイしました。
滞在中役場に訪れた2人は、差し出された町のパンフレットを見ながら、「ゲートボールはお年寄りだけがやるんですか」など、入善町について盛んに質問していました。

カメラ・トランクス かめら・とびこむす

住	東	東	入	上	藤	若	芦	目	小	舟	青	入	入	櫛	入	野	野	入	下	下	下	上	下	下	上	青	上	上	上	小	福	
所	所	友	友	野	原	栗	崎	川	摺	見	木	膳	膳	膳	膳	膳	膳	膳	飯	飯	飯	飯	飯	飯	飯	木	野	野	野	野	摺	島
保	飯	林	吉	吉	池	若	濱	杉	寺	樽	中	山	上	扇	板	金	岩	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	新	
護	作	義	田	草	原	嶋	屋	澤	林	井	林	田	田	原	谷	山	塚	坂	坂	坂	坂	坂	坂	坂	坂	坂	坂	坂	坂	坂	新	
者	友	春	孝	切	正	光	芳	晴	彰	茂	真	郁	隆	敏	政	勇	達	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	新	
続	友	春	孝	切	正	光	芳	晴	彰	茂	真	郁	隆	敏	政	勇	達	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	新	
柄	吉	春	友	善	昭	一	博	輝	純	美	一	夫	夫	男	明	吉	夫	次	次	次	次	次	次	次	次	次	次	次	次	次	新	
名	正	未	数	一	大	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	新	
前	吉	来	正	也	悟	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	衣	新	



ところはないと思います。雪に閑
連してですが、こちらの人は寒が
り屋ですね。私は1年中、ランニ
ングシャツか半袖のシャツにステ
テコで通しますが、こちらでは半
袖のシャツに加えて長袖のものを
着込み、下はモモヒキまではく
んですから……。

——町内を見渡して気の付いた点
は？

佐田 基盤整備された田んぼは
見事というしかないですね。でも
最近、田んぼのあぜをコンクリー
ト製に作り変えているのには驚き
ました。こんなこと言ったら農家
のかたに叱られますが、美しい田
園風景が台無しです。

——夜の入善はいかがですか？

佐田 赴任早々、夜の町を徘徊
しました。カラオケを楽しめる店
もたくさんありますし、満足して
います。

『米沢紋三郎翁と元健翁父子の
回想録』を自費出版した

田中 忠一さん
(入膳・79歳)



富山県を生んだ父・米沢紋三郎翁、そして、
入善町合併後の昭和29年から4年間、入善町
長として町政に尽くされた米沢元健翁の業績
などを、A5版76ページにまとめました。

最初に置県百年記念として、紋三郎翁(昭
和4年、73歳で死去)の富山県分県の建白書
や関歴を記述。次に元健翁(昭和40年・83歳
で死去)の部では、略歴のほかに氏の一大事
業であった私立米沢図書館の開設についても触れています。

米沢図書館司書や米沢紋三郎、元健両翁の秘書として30年
間仕えた田中さんは「県や町に多くの業績を残された米沢父
子を理解するためにも、一人でも多くのかたに読んでいた
きたい」と話しています。

回想録は実費700円で、入善町立図書館と竹内書店(入膳)
で購入できます。

カメラ・テレビ・カメラ・テレビ

特急列車を
利用しまし
よう

往復切符・定期券は

入善駅で買
いましょう

入善駅利用
促進協議会

おくやみ



道上	一野	入宿	舟膳	五十見	青木	舟見	舟見	吉原	下飯野	桐山	一宿	神子沢	神子沢	東狐	舟見	舟見	野中	古林	桐山	入膳	福島	上野	小摺戸	上野	青野	桐山	住所	
中澤誠一	伊林舞美	柳澤ちよ	上田幸吉	山本やい	飯作秀雄	荻田すみ	谷口やよ	谷平静	柳平ミサ	野坂ひな	池原隆安	柳原幸子	濱田由次郎	車ひよ	大井正雄	柳原とめ	筒井みさ	江畑仙松	酒井ヨシエ	上島はな	上原千代	松原みよ	川口ちや	舟根フナ	野澤義雄	藤原めり	長島みよ	氏名
62	0	86	84	76	53	67	84	77	64	83	68	43	79	92	82	85	70	67	67	77	66	77	71	75	67	85	73	年齢
本	佐	要	本	本	清	本	本	本	本	本	あ	本	清	本	本	本	本	本	本	小	本	洋	一	広	勝	信	幸	世
人	一	松	人	人	人	松	人	人	人	人	人	人	人	作	人	人	人	人	人	治	人	一	郎	作	義	義	盛	帯

(8月12日受付分まで)



米田さん(魚津市)が

ミス織姫に

入善七夕祭りの名物といえば、ミス織姫コンテスト。今年も町内外から麗しき乙女16人が浴衣姿で登場。審査の結果、ミス織姫に米田理佳さん(魚津市・19歳・学生)、スイカ娘に浜木裕子さん(八幡・22歳・0歳)、イチゴ娘に広瀬しのぶさん(入膳・19歳・学生)がそれぞれ選ばれました。(写真左から広瀬さん、米田さん、浜木さん)

おいに 賑わいました



▲ 総重量は93.78キロでした ▲

西瓜重量あてクイズ

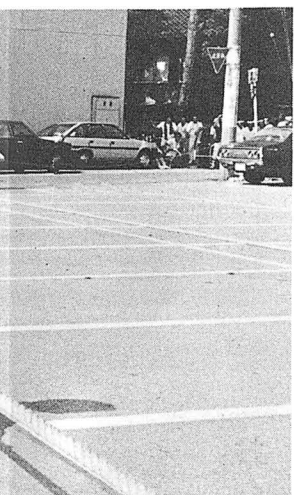
ジャンボ西瓜7個の合計の重さをあてる「重量あてクイズ」——。30人が挑戦して見事優勝したのは、入善の親せきに遊びに来ていた所沢市在住の三富綾子さん(21歳)。ジャンボ西瓜生産組合長の道又光雄さんから、今年とれた中で一番大きな西瓜がプレゼントされました。

入善七夕祭り

恒例の入善七夕祭りが、8月4日から7日まで、入善市街地を中心に開かれました。

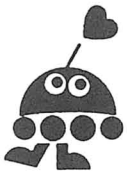
今年も、これまで以上に多種多様な催物が繰り広げられ、市街地は大勢の人で連日連夜にぎわいました。

催物の中から、織姫コンテスト(6日)、入善ジャンボ西瓜フェスティバル(6日)、ソックリショー(5日)、入善町綱引き選手権大会(7日)をスナップにしてみました。



選手権

町内から男子を競いました。はクイーン6区に出場するこ



観衆を魅了

新世紀博に3団体が出演

太閤山ランドに開かれている「にっぽん新世紀博覧会」——。8月20日の「市町村の日」は、入善町の出演。この日町から吉原木遣り保存会、今江太鼓、入善町音楽愛好会ルナ・クバーナの3団体が出演し、詰めかけた多くの観衆を魅了しました。



▲吉原木遣り
威勢のよい屋形船の練り回しに、観衆はジックリ見とれていました。

▶今江太鼓

舞台度胸もつき、太鼓の音が会場いっばいに響きました。



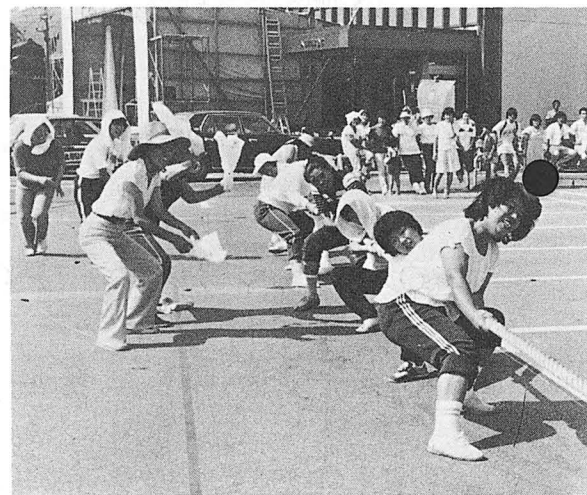
▲ルナ・クバーナ
大勢の聴衆を前に、演奏に力が入ります。



本当に似ていましたネ ソックリショー

ジャンボ西瓜祭りの合間に行われたソックリショー。

小林旭さん・美空ひばりさんらしい人の歌と語りに、会場からは「なんて似とらー」との声…。歌唱力も抜群のお二人でした。



暑さも吹き飛ば、綱引き

今年が第1回目の町綱引き選手権大会。9チーム、女子・4チームが参加して力激戦の結果、男子が孝志会(蛇沢)、女子で(入膳)がそれぞれ優勝。11月の富山県大々になっています。

今秋は、記念事業が目白押し 入善町合併30周年を祝って



来たる10月1日は、入善町が昭和28年に合併してから、ちょうど30周年にあたる日です。町ではこれを祝って、9月から10月にかけて次のような記念事業を予定しています。開催にあたっては『みんなで参加し、みんなで祝う』という考えに立ち、できるだけ多くの町民のかたに参加していただきたいと思います。なお、記念式典については会場の都合などにより、招待者のみの参加となりますので、よろしくお願ひします。

9月

第11回町美術展

- 期日 / 9月23日(金)～25日(日)
- 会場 / 武村福祉会館ホール
- 内容 / 日本画・洋画・版画・書・写真・彫刻・工芸などの展示

10月

合併30周年記念式典関係

- 期日 / 10月1日(土)
- 内容・時間・会場 /
- (1) 名誉町民記念植樹
午前9時15分～庁舎前
- (2) 町民憲章碑除幕式
午前9時30分～庁舎前

- (3) 記念式典・名誉町民推戴・自治功労者表彰
午前10時～武村福祉会館ホール
(招待者470名のみの参加)

町のあゆみ展

- 期日 / 10月1日(土)～7日(金)
- 会場 / 武村福祉会館1階ロビー
- 内容 / 入善の風土と歴史・町民の暮らし30年・入善の先駆者・家並みの移り変りなどの展示

「緑と土と生活」を考える シンポジウム

- 日時 / 10月16日(日)
午後0時30分～5時
- 会場 / 武村福祉会館ホール

- 主催 / 黒部川扇状地地域社会研究所

- 内容 /
- (1) シンポジウム

① 講演

- 「黒部川扇状地の地下水とその利用」
筑波大学教授・榎根勇氏
- 「農工一体化」
文教大学助教授・北林吉弘氏
- 「土と農業」
県農業試験場長・熊野誠一氏

② 映画上映

- 「吉原沖海底埋没林」
NHKが制作した16ミリ映画

(2) 特別講演

- 「これからの米と食生活」
評論家(俳人)・楠本憲吉氏



お知らせ



募集

町美術展の作品を

● 9月23日から25日まで、福祉会館で開催される町美術展の作品を募集しています▼部門：日本画・洋画・版画・書・写真・彫刻・工芸美術・陶芸▼応募資格：町在住者、勤労者、出身者で、作品は未発表のもの。ただし小・中学生は除く▼申込み：所定の申込書で9月16日までに中央公民館へ。申込書は中央公民館にあります。

県勤労者美術展の作品を

▼ 展示日時：11月3日～6日・午前9時～午後6時▼会場：県民会館地下展示場▼部門：町美術展と同じ▼応募資格：県内の会社・工場・事業所・商店などに勤務する勤労者でアマチュアのかたに限りません。未発表のもので1人1部門1点です▼申込み：9月16日から10月15日まで、県商工労働部労政課 ☎ 076-4-31-4111 内線522番まで。

健康づくり体験作文を

● 入善町健康推進大会が、11月20日(日)午前10時から福祉会館で開かれます。この大会の席上、健康づくりに関する体験記を多くのかたに紹介し、町民の健康増進に役立てたいと思います。ご自身の、あるいはご家庭のかたの活発な投稿をお待ちしています▼募集期間：9月1日～10月31日▼応募資格：町民のかたならどなたでも(小・中学生は除きます)▼テーマ：「私の健康づくり」「我が家の健康づくり」「私はこのように病気を克服した」

善意の窓

あたたかいご芳志に感謝いたします。

入善町善意銀行 (敬称略)

(7月12日～8月11日)

■ 社会福祉事業資金に

		円	
上野	高山 吉松	961	釣銭をためて
五十里	飯作 陸美	100,000	亡父力松の供養として
入膳	匿名	10,000	(7月分)
梶山新	前田 久秀	10,000	亡父久太郎の供養として
田中	田中 賢次	50,000	亡父千一の供養として
浦山新	野寺 雄二	1,000	拾得金の報償金を
	入善町商工会 婦人部 (代)竹内文子	9,478	チャリティバザールの純 益を社会福祉事業資金に
入膳	スーパーオギハラ (代)扇原照明	15,271	入善七夕まつり「流しソー メン」チャリティ券金を社 会福祉事業資金に
吉原	沢村 光子	500	大日岳登山雨のため中止 になりその還付金を
〃	柴沢 美子	500	

■ 舟見寿楽苑へ

朝日町	松田 ハナ	10,000	亡夫城の新盆を迎えて
-----	-------	--------	------------

■ 入善町交通遺児の会へ

春日	舟渡 桂	36,000	定年記念と交通安全の日に
吉原	保要 珠希	100,000	亡父博治の供養として

※先月分で入善町交通遺児の会の分が記入漏れしておりましたので深くおわび申し上げます。

■ 物品の部

東京都	真嶋よし子	化粧石ケン 600個 学生用	老人いこいの家へ
入膳	木田 豊作	黒ズボン20本 白ズボン11本 学生服2着 半オーバー1着	店の整理品を愛育園へ
入膳	富士山テクニカル エンジニア社 (代)前田正行	古切手 500枚	日赤県支部へ

**使いやすく
内容豊かな
県民手帳**

区長さんを通じ、回覧板で
予約申し込み。役場1階窓口
でも受け付けます。
締め切りは9月24日です。



1984
定価 350円

上青小職員の 作品が入選

上青小校歌が決まる

今年4月に開校した上青小学校の校歌を募集していましたが、7月26日、その審査会を開き、応募作16点の中から入選1点、佳作3点を選びました。

入選作は、上青小学校の山本校長ら職員全員で作詞したもので、上原・青木地区の特色や将来の希望など、七五調に明るく表現してあります。また、佳作には愛場一立さん(上野・60歳)、森清松さん(上野・57歳)、米島喜善さん(下飯野新・63歳)の作品が選ばれました。

同校では、現在作曲を依頼しており、10月の運動会には児童全員で歌うことになっています。

上青小学校々歌

当校職員一同

- (一) あふれる光 白馬岳
高い理想を うちたてて
住みよい社会つくるよう
共に考え はげみあう
上青小に 栄えあれ
- (二) 湧きでる泉 沢杉の
豊かなみどり うけついで
やさしい心 広げつつ
共に手を取り 助けあう
上青小に 望みあれ
- (三) 寄せる荒波 越の海
きびしい試練 のり越えて
希望のあした きづくよう
共に明るく たくましく
上青小に 誇りあれ



案内

PTA教育無料相談

▼9月1日(木)：「進路」田原長五郎(前入善小学校長)、「学習」能登絹子(桜井中学校教諭)

▼9月15日(木)：「学習」松田伊治(朝日中学校長)、「生活」柚木俊二(町教育センター主事)

▼時間：午後5時30分から7時30分

▼場所：福祉会館2階会議室

など、健康に関することならどんなことでも結構です▼応募規定：400字詰原稿用紙3枚程度。原稿用紙の末尾に、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を記入してください▼申込み：役場環境保健課まで。

私たちの広場

ご意見などを
お寄せください

この広場は――

- ご意見
- イラストやマンガ
- ゆずります・ゆずってください
- グループの紹介……などに利用したいと考えています。

紙上匿名は自由ですが、原稿には必ず住所・氏名を明記してください。

広報係 ☎72-1100内線39

その7

『花火を見る前に
眠ってしまった妹』

イラスト

泉 裕子 さん
(高3・上野)



車を30分ほど走らせると利根導水路にさしかかり、その坂を一気に登ると利根川のゆるやかな流れが広がります。濃い緑と広い砂州、水際に光る小魚と鳥の声に、思わず「ほおー」と深呼吸。心がゆったりと落ち着き、表情までが穏やかになってきます。

入善で生まれ育った主人と私が、入善を離れて12年。そして、海のない埼玉に住んで早や6年が過ぎようとしています。年に何度かここへ来たくなり、時には子どもたちとお弁当を開くのが楽しみになりました。

古里・入善を遠く離れている人の多くがそうであるように、私たち夫婦も富山県のニュースに聞き



米田初美さん

ふるさと

への便り

『海が恋しくて……』

旧姓―藤井、入膳出身。昭和45年入善高校を経て、日本女子体育大学を卒業。現在、埼玉県鴻巣市立鴻巣北中学校に勤務。

埼玉県北本市在住、32歳。

耳を立て、高校野球が始まると富山の戦況に心を躍らせます。富山から来た物と知ると、「少々値が高くて」と、米や海産物を求めて喜び合い、お正月が近づけば、カブラ寿司を作っておせちの準備。そのうえ、交わす言葉は昔のままの入善弁で、今住んでいる家も純入善造りという、入善そのままの暮らしをしています。ある日ふと入善を感じたくなります。海が恋しくなるのです。

幼いころ、嬉しうにつけ悲しいにつけ眺めに行つた春日や田中の浜。寄せては返す波間に、吸い込まれそうな気がしたあの海が、この利根川の景色の中にあるはずがないとわかっているのですが。

楽しい思い出ばかりでなく、海の恐さや底知れぬ力を遊びの中で知らされました。波打ち際で泳ぎながら、それらを目の当りにして育つた身体には、海ならではの何かがかしみ込んでいるような気がします。

それは、言葉や行動を越えた大きな自然、私たちの暮らしの中に不可欠なもの。とすると、海との関わりがほとんど望めない我が子らに、その大きなものを感じさせるにはどうしたらよいのだろうか。

そんな気持ちが働いたかどうかハッキリしませんが、実は主人も私もただ海が見たい、広い所へ行きたいという、ただそれだけの衝動にかられてやって来たのです。

深呼吸をして、優しい気持ちに戻れるこの川は、やはり入善にながっているのかもしれない。私たちの父や母が泳ぎ遊んだ浜辺のある入善は、年月の流れとともに発展し、その姿を変えつつあります。でも、雄大な山や海、そして思い出がいっぱいの古里は、依然として美しく輝いています。そう、入善はいつまでも主人と私の大切な町なんです。

この欄への原稿を募集
しています。

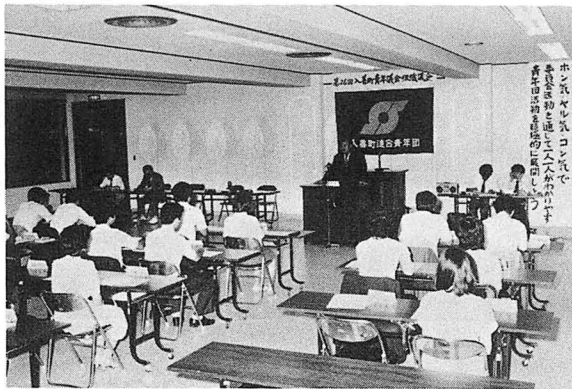
あて先は、広報係まで。

議長に川畑君を選ぶ

入善町青年議会

第26回入善町青年議会・組織議
 会が、8月12日午後7時30分
 から役場大会議室で開かれ、12月4日
 の本会議に向け、町政学習のスタ
 ートを切りました。

最初に、議長に川畑良宗君（青
 島・22歳・団体職員）、副議長に
 竹田隆浩君（笹原・22歳・地方公
 務員）を選出。次いで各常任委員



▲ 柚木町長から町政について説明を聞く青年議員

会委員、同正副委員長を決めたあ
 と、柚木町長が町政全般について
 説明し、閉会しました。

22名の青年議員は今後、各委員
 会ごとに12月4日の本会議まで町
 政について学習し、同会議で一般
 質問を行います。

◎印は委員長、○印は副委員長

〔総務委員会〕

◎大井栄 ○池原真由美

佐藤誠和、竹島秀浩

柏原親一、大畑 恵

松井幸二

〔文教厚生委員会〕

◎白又秀夫 ○西川春美

松嶋幸一、住久直人、

川畑良宗、高橋智子、

裏田まゆみ

〔産業建設委員会〕

◎小堀勇 ○中瀬真理子

若島将人、松島尚志、

小柳有子、上野恭男、

坂東保敏、竹田隆浩

あなたと図書館



本との出会い ゆたかな人生

『積木くずし』

を読んで



杉本真寿美さん
(入善高3年・入籍)

いのだろうか。

著者の娘である由香里がこま

で立ち直ることができたのも、な

んとしてでも自分たちの力で娘を

立ち直らせようという、親の熱意

が子どもに伝わったからだと思う。

よくTVなどで、非行に走った

子にインタビューしているが、「親

は君のことをどう見ている」との質

問に、ほとんどが「あきらめてい

る」「無視している」などと見放

された返事ばかりだ。

本の中にこんな一節があった。

『非行の子どもたちが、家裁から

鑑別所や少年院に送られるとき、

走り去る車の中から、そのほとん

どの子どもたちが「てめえのせい

でこうなった」とか、「てめえが

で行くそうである。これは誰が悪いのでもない。親の悲しい程の愛が、子どもの心と交わることのない虚しさから来る悲劇である。子どもと親の絆が、どこかで絶たれてしまった不幸が招いたものである。

親が本当に子どもを理解しようとするなら、自分の意志を押しついたり、大人の次元で物事を考えてはいけない。子どもが生活している、子どもの社会というものをもっともっと理解して、自分の子が何を考えているのかを、少しでも分かってあげられるよう努力することが、一番大切なことだと思う。

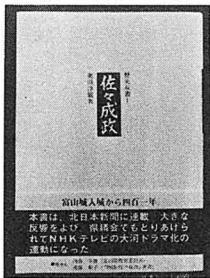
穂積さん夫婦は、人間としても親としても、未熟な意志の弱い夫婦だったと思う。身も心もボロボロになりながら、孤独と必死に戦っている娘を助けなくてはと、だまされ、振り回され、そしてつき離され、その苦しみのどん底の中で、やっとの思いで我が子の心をつかんだのだろうか。それと同時に、夫婦として、父として、また母としてのあるべき姿も見出しにたに違いない。

近ごろ離婚や蒸発が原因で、家庭崩壊が増す一方だ。放っておいても確かに子は育つ。しかし心はすすんでいる。誰のせいでもない、親のせいだ。親とは何かをよく分からずに、子どもを生む人が多すぎるようだ。

新着図書案内

県内でも著名な郷土史家
 である奥田淳爾氏（吉原・
 50歳）が、歴史書『佐々成
 政』を刊行されました。

歪められた成政像を改め、
 成政を正しく評価すること
 を目指して書かれたもので
 す。ぜひ、ご一読をお勧め
 します。



▲ 奥田淳爾氏が著した『佐々成政』

■写真・右／昭和27年当時の牛
による田起こし・左／現在の
機械作業
提供・嶋田久之さん（板屋）



古い写真と原稿を お寄せください

私たちの歩みを、このページに

町民のみなさんはもうご存知のことと思いますが、入善町は昭和28年10月、入善町、上原村、青木村、飯野村、小摺戸村、新屋村、棚山村、横山村の1町7か村が合併しました。そして5年後の34年1月、野中分離地区を含む舟見町が編入合併し、現在に至っています。

あれから30年を経た昭和58年。町では、この合併30周年を祝ってさまざまな記念行事を計画しているところです。

広報係でもこれと併せて、『わがまち今昔』『30年とわたし』というテーマで、私たちの歩みを振り返ってみたいと思います。

『わがまち今昔』では、昔の写真と現在の姿を見比べます。古い写真をぜひ提供してください。

『30年とわたし』では、あなた自身の30年をつづってください。

あて先は、役場広報係（☎72-1100 内線39番）です。

「光陰矢の如し」。入善町が町村合併以来、30年の節目を迎えています。これまで実に様々な移り変りに目を注ぐものがあります。例えば我が国の経済にしても、神武景気、岩戸景気、鍋底景気、高度成長、そして低成長へと移行・循環し、町の経済・社会環境も好むと好まざるにかかわらず、これと歩調を合わせてきました。とりわけ、躍進に躍進を重ねた

のは、昭和40年代の高度成長時代でした。北陸線がS Lから複線電化となり、町の表玄関入善駅舎が改築され、現在では1日4本の特急が停車するようになりました。一方、道路網も8号線の開通、高速自動車道やスーパー農道の建設が進み、また企業誘致にあつては、新和工業、富山日本電気をはじめ、多くの工場が町に進出ししました。こういった中で、分譲宅地の造

成、ほ場整備事業、黒東小学校、西中、上青小学校など近代的な教育施設の充実、雪に強い町づくりの一環としての消雪装置の促進、海岸浸食に対する海岸保全事業など、例をあげれば切りがありません。こんな町の移り変りを、誰が想像したでしょうか。町の進路に終着駅はありません。「ローマは一日にして成らず」。社会の進展に追いつき追いつけず、過去30年以上の発展が可能で



『私の見た 30年雑感』

西村三夫さん
(上野・43歳)

入善町で生まれ育ち、町をこよなく愛する町民の一人として、今後も、町の発展に微力ながらも理解と協力を注ぎたいと思う今日この頃です。

編集室

▼お盆の8月14日、ちょっと風変わりなクラス会がありました。舟見小学校の昭和30年度卒業生（18年生まれ）で、今年がちょうど四十二の厄年に当たることから開いたものです。

▼思い出多い母校の教室で、実際に机を並べて授業を受けるといったユニークさ。音楽では校歌を全員で歌い、ホームルームでは恩師に出欠を取ってもらったり、給食では、当時食べたコッペパンや脱脂粉乳が用意されるなど、先生も生徒も一気に27年前に逆もどりの「クラス会は宴会場で」というのが一般ですが、ちょっとした演出で懐かしさも倍増するようです。来年クラス会を予定している幹事さん、今から工夫してくださいネ。

今月の人口			
人口	29,801 (+35)		29,738
男	14,248 (+30)		14,225
女	15,553 (+5)		15,513
世帯数	7,666 (+4)		7,418
	()内は前月比		前年同月
8月1日現在住民登録			